

事務事業シート(実施計画事前基礎シート)

(H.27)No.	5027	(H.26)No.	5027
-----------	------	-----------	------

事務事業名	河川維持費		
担当部局名	担当室名	室長名	
上下水道部	下水道維持室	西森 平太郎	

会計区分	事業コード	400503
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 土木費	河川維持費	
項 河川費	(小事業名)	
目 河川維持費	河川維持費	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政 策	3	人が行き交い活力あふれる、安全で快適な暮らし
	基本政策	3	快適な生活環境づくり
	施 策	1	下水道等
	小 施 策	3	その他の生活排水処理
重点施策コード			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
蔵持町里地区へのシャックリ川の浸水対策に伴う排水ポンプ施設及び汚水排水管並びに管路マンホールの適正な機能の維持管理
事業内容
<ul style="list-style-type: none"> 里地区排水機場維持管理 八幡工業団地内排水管維持管理 美旗排水管維持管理

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

主な事業の実績・計画	H.26年度(事業量・取組実績)	H.27年度(事業量・取組計画)			
	<ul style="list-style-type: none"> ○里地区排水機場・八幡工業団地内排水管・美旗排水管維持管理 ・美旗マンホールポンプ保守点検 2回/年 ・里地区排水機場動作確認 12回/年 ・設備点検 1回/年(隔年実施) ・設備点検報告書に基づく槽内堆積土砂引抜作業 1回 	<ul style="list-style-type: none"> ○里地区排水機場・八幡工業団地内排水管・美旗排水管維持管理 ・美旗マンホールポンプ保守点検 2回/年 ・里地区排水機場動作確認 12回/年 ・槽内堆積土砂引抜作業 1回 	H.28年度(事業計画)	H.29年度(事業計画)	H.30年度(事業計画)
			<ul style="list-style-type: none"> ○里地区排水機場・八幡工業団地内、美旗排水管維持管理・美旗マンホールポンプ保守点検・里地区排水機場動作設備点検・槽内堆積土砂引抜 	<ul style="list-style-type: none"> ○里地区排水機場・八幡工業団地内、美旗排水管維持管理・美旗マンホールポンプ保守点検・里地区排水機場動作確認・槽内堆積土砂引抜 	<ul style="list-style-type: none"> ○里地区排水機場・八幡工業団地内、美旗排水管維持管理・美旗マンホールポンプ保守点検・里地区排水機場設備点検・槽内堆積土砂引抜

	H.26年度(決算見込)	H.27年度(作成時予算額)	H.28年度(計画予算)	H.29年度(計画予算)	H.30年度(計画予算)
①直接事業費	832千円	1,346千円	1,350千円	1,350千円	1,350千円
内訳(千円)	国・県支出金				
	地方債				
	その他()				
	一般財源	(0) 832	1,346	1,350	1,350
人工数	職員	0.06人	0.06人	0.06人	0.06人
	臨時職員等				
②概算人件費	(0千円) 450千円	450千円	450千円	450千円	450千円
①+②総事業費	(0千円) 1,282千円	1,796千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円

4. 担当室による事務事業の点検 (*点検等による成果向上や見直しが困難な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業などは点検対象外)

考察(H.26年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
里排水機場設備点検(隔年実施)をおこない、機器の異常や損傷がないかの確認をおこないました。また、八幡工業団地内排水管や美旗排水管の維持管理や、マンホール内にあるポンプを引き揚げ、保守点検をおこないました。	各設備や機器の適正な維持管理をおこない、周辺地域の環境維持に努めます。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか B(いずれかの施策指標達成に貢献又は基本方針達成に貢献)	生活環境の改善と公共水域の水質の保全に貢献しています。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 該当しない	

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
--	--------

具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に関する主な市の計画
生活環境の形成とともに公共水域の水質保全の為、継続が必要。	